

教育目標

豊かな心とたくましい体を持ち、自ら考え意欲的に学ぶ子どもの育成

【めざす学校像】

- ・子どもが通いたくなる学校
- ・保護者や地域が通わせたい学校
- ・教職員が働きがいのある学校

【めざす子ども像】

- ・自ら考え学ぶ子
- ・自他を愛する子
- ・健康でたくましい子

【めざす教師像】

- ・子どもに寄り添う温もりのある教師
- ・的確に優しくも厳しく指導できる教師
- ・子ども・保護者・地域から信頼される教師

学校経営方針

～地域の子は地域で見守り育てられる核となる学校づくり～

1 確かな学力の育成と健康な体づくり

- (1) 学習意欲の向上と基礎・基本の徹底
- (2) 特別支援教育の充実
- (3) 食育の充実と望ましい生活習慣の育成
- (4) 体力・運動能力の向上

- ・学習タイムや放課後学習の充実、家庭学習の定着の取組を促進し、基礎基本の徹底と学習習慣の確立を図ると共に、児童が自ら学ぶ意欲を育成する。
- ・学力向上担当を中心に児童の学力や生活の現状と課題を把握し、対策を検討・実施する。
- ・児童が楽しく学び、確かな学力を身につける前提として、「チャイム着席」、「学習用具の準備」、「話をしっかり聞く」、「発言のルールを守る」等の学習規律の確立を、全校同一歩調で取り組む。
- ・学習意欲を高め、確かな学力向上のためには、全教育活動の中で取り組むことはもちろんのことであるが、とりわけ授業の中で達成していくことが必要であることから、教師の指導力・授業力の向上を図っていく。
- ・特別支援学級に在籍する児童や、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童の生活や学習上の課題を改善するために一人ひとりの教育的ニーズを把握し、きめ細かい適切な教育的支援を行う。
- ・インクルーシブ教育を推進するため、障がいのある児童と障がいのない児童との交流（尼崎養護学校等との交流も）を積極的に取り入れ、多様性を尊重する心と共に学ぼうとする態度を養う。
- ・食育の全体計画のもと食育の充実を図り、日々の給食指導、出前授業、「食育だより」や昼の「給食放送」等を通して、「食」に関する正しい知識・情報を理解させ、望ましい生活習慣の育成を図る。
- ・計画的な体育学習やスポーツ活動（ジョギング、長縄等）の充実を図る。
- ・外遊びの楽しさを感じさせ、休憩時間を外で遊ぶようにさせる

2 人間性豊かな児童の育成

- (1) 人間尊重の精神を基にした人間性豊かな児童の育成
- (2) 豊かな心を育成するための人権・道徳教育の充実
- (3) いじめ・不登校の根絶と生徒指導の充実
- (4) キャリア教育の取り組みの促進

- ・命の大切さや自分や他者を大切に思う心並びに、一人ひとりがかかけがえない存在として尊重されること等、人権尊重の精神に満ちた豊かな心が育っていく学校・学級、仲間づくりを図っていく。

- ・道徳教育は教育活動全体の中で実施するものであるが、その中の特別の教科「道徳」の時間は、児童の道徳的心情を意図的・計画的に育んでいく時間であるため、日頃より道徳教育の充実を図りつつ、児童一人ひとりの自己有用感や自己肯定感、自尊感情を高めていく。
- ・教職員が児童の立場に立って愛情深く温もりのある指導をし、「認めてくれた、大切にしてくれた」と児童が実感できる学級経営・学校経営に取り組む必要がある。そのためには、自己肯定感の高い児童の育成や、問題行動への指導及び不登校傾向の解決は、担任だけでなく学校全体で組織的に解決・改善していく。
- ・児童の内面理解、いじめの防止に努め、児童や保護者の相談しやすい環境づくりに努める。
- ・スマートフォンや携帯電話、パソコン等の適切な活用と情報モラルや情報安全等に対する指導を充実させる。
- ・発達段階に応じた体験活動等を推進し、児童が学ぶことと働くことの意義を理解し、夢や希望をもって自己実現が図れるよう指導・支援する。

3 家庭・地域・学校の連携と活力に満ちた学校づくり

- (1) 児童の安心・安全と健全育成に向けた保護者・地域・関係機関との連携
- (2) 学校組織力「チーム難波の梅」による教育活動の推進

- ・学校・家庭・地域社会との連携を積極的に推進し、三者で協力・補完し合いながら活気ある教育活動を展開するとともに、家庭児童相談所や福祉事務所等とのよりよい密接な連携をとりつつ、多方面からの働きかけにより児童の安心・安全、健全育成に努めていく。
- ・児童一人ひとりの人権尊重と社会貢献の精神を育み、基礎的・基本的な学力向上を図りつつ、その個性と創造力を伸ばし、広く国際社会でたくましく生きて働き行動する力を身につけさせることが我々教職員の責務である。そのためには、難波の梅小の教職員が「チーム難波の梅」として一丸となり、互いの良さを生かしながら全力で取り組む。
- ・年間5回のオープンスクールの実施、ホームページの充実により学校の教育活動を公開する。

4 安全な教育環境の確保と防災意識の高揚

- (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保
- (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上

- ・地域の協力を得て、スクールガードを組織し、登下校時の安全確保の取り組みを充実させると共に、安全管理員、校門の施錠システムなどを活用し、児童の安全確保に努める。
- ・自転車教室の実施や地区活動など学年に応じた安全教育を通して、児童の危険予測・危機回避能力の育成を図る。
- ・避難訓練や集団下校など防災意識を高める取り組みを推進する。また、PTAと共に救急救命講習会を実施するなど、教職員の危機管理能力の向上を図る。

【校内研究】

1 研究テーマ

「認め合う子どもの育成」 ～互いに伝え合い話し合う活動を通して～

2 研究領域

教科：国語科 全領域

3 研究テーマについて

全ての教科の基礎であり、言語活動が多様な国語科を研究教科に決め、研究に取り組む、
【学習スタイル】 ① 意見を持つ ② 意見を交流する ③ ふりかえる

4 研究方法

- ・低・中・高・専科ブロックで全体授業を各1回実施する。
- ・全体研究授業には、講師（関西大学初等部 西先生）を招聘し、全体研究会を行う。
- ・1学期に西先生の模範授業を実施し、より研究を深める。

【学力向上アクションプラン】

- ・放課後学習を実施する。 3・4・5・6年
- ・全体研究授業に講師（関西大学初等部 西先生）を要請する。 年5回
- ・計算力テストを実施し、その結果の分析を通して計算力のアップを図る。
- ・自主学習ノートを使用することによって、自分で学習する習慣をつける。
- ・自主学習ノートコンテストを年2回実施し、自主学習の取り組みを奨励する。

【若手教員の育成】

- ・一人一授業の実施。
- ・若手教員の会の実施。
- ・ICT機器の活用。
- ・学校マニュアルブックの作成。

【校種間連携】

- ・授業参観の交流の実施。
- ・カリキュラム検討の実施。
- ・行事の交流の実施。
- ・クラブ体験の実施。

【勤務時間の適正】

- ・会議の効率化の実施。（1時間以内に終える）
- ・定時退勤の完全実施。
- ・職員の勤務時間の把握。